

# ネマキについて

里見 怜子

## 1 はじめに

流行が多様化し、目まぐるしく変化する現代において、ここ数年間ファッション界には主流らしいものがなく、服装は単に体を保護したり、保温の調節のためだけでなく、自分の感覚や思想を表現する「メディア」になりつつある。しかし、このファッションの流行も、主としてドレスやコートなどの外着一般についてのものであり、人生の3分の1を占める休息時に着用されるネマキについては、案外無関心で軽くみる傾向が強い。そこでこのネマキについて、調べてみたいと思う。

「ネマキ」は寝衣ともいい、夜寝る時に着用する就寝用衣服の総称であるが、ここでは和服型のものとはパジャマやネグリジェなどの洋服型のものとは分類する。すべてがスピード化している現代社会においては、服装の洋風化と共に、ネマキもその影響を受け、パジャマやネグリジェなどがより普及するようになった。

## 2 ネマキの種類

### a 和服型のネマキ

和服型のものでは、浴衣（ゆかた）が最も多く用いられている。浴衣とは湯帷子の略で、近世以前の風呂は蒸風呂か湯を浴びる程度のものであったから、平安時代以来上層階級の人々は入浴の折に裸体にならず湯帷子といわれる単衣の衣服をまとっていた。その後、湯から上がった後に着る様になり、江戸時代以降、夏の衣服として広く愛用され、最近では寝衣兼用にも着られている。若い女性にはあまり好まれていないが、男性にとって浴衣はパジャマでは得られない帰宅後のくつろぎ着として根強く愛用されている。ネマキを着る時に必要な帯、ひもは別に用いるものと、ネマキにとりつけたものがあり、婦人物では伊達巻、男子物では細帯、子供用には細帯を後で縫いつけ、前で結ぶようにしたものが見られる。

主としてネマキに用いられる生地は木綿を中心に絹、合成繊維などの色無地、格子、縞、プリント柄などで種類も多く、防寒用としては綿ネルなども使われ、最近ではタオル地や綿ジャージもある。また吸湿性に富み、洗濯に

よく耐え、しかも肌ざわりが柔らかい二重織ガーゼのネマキも市販されている。

#### b 洋服型のネマキ

##### (1) ネグリジェ Négligé (仏) Negligee (英)

軽くやわらかい感じで、レースやフリルなどの飾りの多い部屋着、化粧着あるいはネマキのことをいう。これは元来ラテン語からきた言葉で、原語は「注意しない」「構わない」「ぞんざいな」という意味を持ち、かしくまっけて着る服とは対照的な、あまり気にとめないで着る服であり、古い時代に儀式用以外の普段着を総じてネグリジェと呼んだ。

形としてはテラード風のものは見られず、普通は衿が無く、半袖、膝までの丈で、身頃はゆるく仕立られ、ウエストをしぼらないものであったが、リボンやサツシュで締めたりして、次第にデザインも華やかになってきている。部屋着として着るたて前から、衿明きとか袖口、裾などにフリルやレース、チュールをあしらった優美な感覚のものもあり、素材としても柔らかな生地で作られるのが普通で、化学繊維、絹、綿などのローン、トリコット、サテン、デシンなどがあり、冬物としてはナイロンにキルティングしたものや綿ネルも用いられている。色彩も白とかピンク、ブルーなどの淡い色が多い。我が国でもこの種のドレスが相当普及してきたが、部屋着というよりもネマキとして着用されることが多い。また最近では、綿ジャージなどで作られた男性用ネグリジェも市販されている。

##### (2) パジャマ Pajamas (英) Pyjamas (米)

就寝時または部屋着として男女の区別なく着用できる洋風の衣服で、上衣とズボンが組合わされスリーピングスーツ (Sleeping Suit) とも呼ばれている。パジャマの起源は、古代フン族が用いた乗馬用の足首まである、ゆつたりした長ズボンにはじまるが、時代の経過と共にインドに流れてゆき、パジャマ (ヒンズー語で長バカマの意) という名がつけられた。その後19世紀頃から、イギリス人がこの上着とズボンとを組合せた綿のパジャマをネマキ専用の寝衣として着用する習慣をインドよりとり入れ、20世紀初期には婦人の間にもナイトガウンに代って登場するようになった。パジャマはまた海浜着、部屋着にも用いられ、その区別はスタイルと材質の相違で分けられる。上着はゆつたりとしたシャツ型が多く、前合わせは片前、両前がある。衿はヘチマカラー、ヘンリーカラー、マンダリンカラー、カラーレスなどがあり、パッチポケットをつけゆるやかに仕立てたヒップレングスの上着に、ズボンも全体にゆつたりしており、ウエストは多くはゴムを入れて

ある。

素材はぜいたくなものでクレープデシンや薄手のウール地、綿フランネル、ブロードクロス、ナイロン、タオル、化繊、ジャージなどの生地で仕立られ、色無地、荒縞柄、プリント柄などが用いられている。特に太めの縦縞は代表的なもので、パジャマストライプの名がある。また夏のパジャマとして、半袖の上着と短いズボンを組合わせたものなどがでている。最近では、裾巾の広いパンタロン形式のズボンや、上着とズボンとが続いたジャンプスーツ形式のパジャマなども見られる。

### (3) ナイトドレス

「夜のドレス」の意味で、ネマキの一種である。

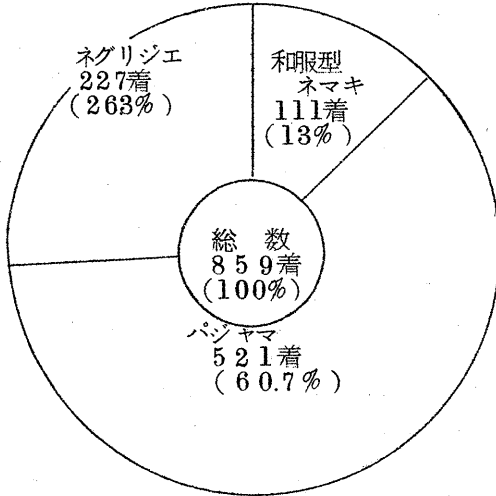
仏語では *Chemise de nuit* (シユミーズ・ドゥ・ヌイ) または *Robe de nuit* (ローブ・ドゥ・ヌイ) といわれる。形はごろごろしないようにウエストラインに胴接(どうはぎ)がなく、上から一続きのものが普通で、ダーツやデコボコする飾りはさけ、また明きも後ではなく前明きとし、休息に適するように着心地のよい型に仕立てられている。昔は長い袖のものも着用されたが暖房設備が整うにつれて、半袖から袖無しのもので使用されるようになってきた。丈はくるぶしままでおおう長いものと膝下まで位の七分のもの、最近では膝上までの短いものも見られる。衿明きは大きく、レースなどで飾られたものが多く、衿付の場合はフラットな小さなもの、またはボウなどが見られる。生地は薄手木綿、人絹、絹、ナイロンパイル、トリコット、クレープ、ローンなどが用いられ、色は主として淡いピンク、ブルー、あるいは白、クリーム、アイボリーホワイトなど無地のものが多いが、模様としては可愛い小花模様、水玉模様などが使われている。

### 3 ネマキの種類別所持数について

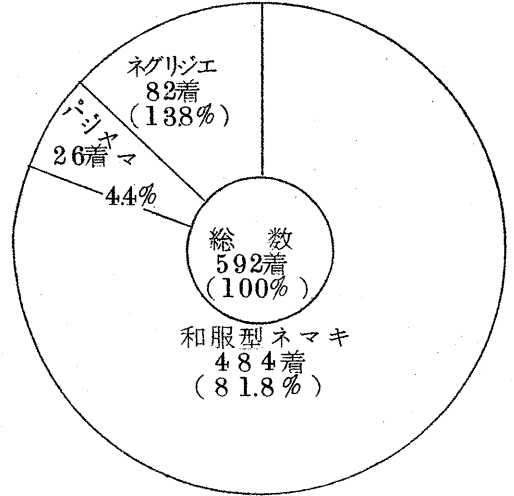
本学短大の学生199人とその母親170人についてネマキの種類別所持数を調査したところ下図の様な結果を得た。

ネマキの種類別所持数比較図 (1969年調査)

学生199人  
平均年齢 18才



母親170人  
平均年齢 47.5才



この図から見ても、学生の持っているものはパジャマが60.6%と最も多く、ネグリジエが26.4%とこれに次ぎ、和服型のネマキが13%。これとは対照的に母親のそれは和服型のネマキが81.8%と圧倒的に多く、次いでネグリジエが13.8%となり、パジャマが4.4%となっている。

学生の和服型のネマキ所持数が最も少ないことはあらかじめ予想されたが、母親のパジャマ所持数が、学生の和服型のネマキ所持数の割合より遙かに下まわっている。これは年齢差に基づく趣向の相違を示すものといえよう。

#### 4 ま と め

日本ではネマキといえば文字通り寝るだけのものとしてしか認識されておらず、浴衣の古くなったものを転用したり、最初からネマキ用としてごく粗末なもので間に合わせる傾向が強かった。しかし最近では、ネマキも生活にとって寝室のムードと関連した重要な要素であることが認識される様になってきた。

21世紀のネマキのファッション予想についてアンケートをとったところ、現在とほとんど変わらない寝衣を着て寝るという意見より、裸で寝るという予想の方が圧倒的に多かった。身体の線を美しくするためにベットを用いる人が多くなることや、セントラルヒーティングの普及などから十分考えられる

ことである。

しかし一面衛生的見地からネマキの効用について考えた場合、裸で寝ることは必ずしも適当ではない。就寝中、体表面から放出される水分は一晚に150g、コップ一杯の水に相当するといわれる。従つて就寝中は吸湿性、保温性にとんだネマキを着用することが健康上からも望ましい。肌ざわりがよく、デザインの上でも満足できるものであれば実用性と感覺的条件を備えたネマキであればより良いものといえよう。

経済的な余裕のある近代生活の中で、貴重な休息時を考える時、ネマキは増々重要な存在として永く着用されることであろう。

この稿をまとめるにあたり、御指導をいただいた本学奥平志づ江助教授並びに調査資料を提供いただいた中井淳子助手に、厚く感謝の意を表します。

#### 参 考 文 献

- |                |          |
|----------------|----------|
| 1 ) 服装大百科事典    | 文化服装学院出版 |
| 2 ) 服飾事典       | 田中千代編    |
| 3 ) 日本服飾史論     | 高橋健自著    |
| 4 ) 服飾近代史      | 遠藤武編     |
| 5 ) 衣生活1967年4月 |          |
| 6 ) " 1970年7月  |          |
| 7 ) 日本の服飾美術    | 東京国立博物館編 |